

経営比較分析表（令和3年度決算）

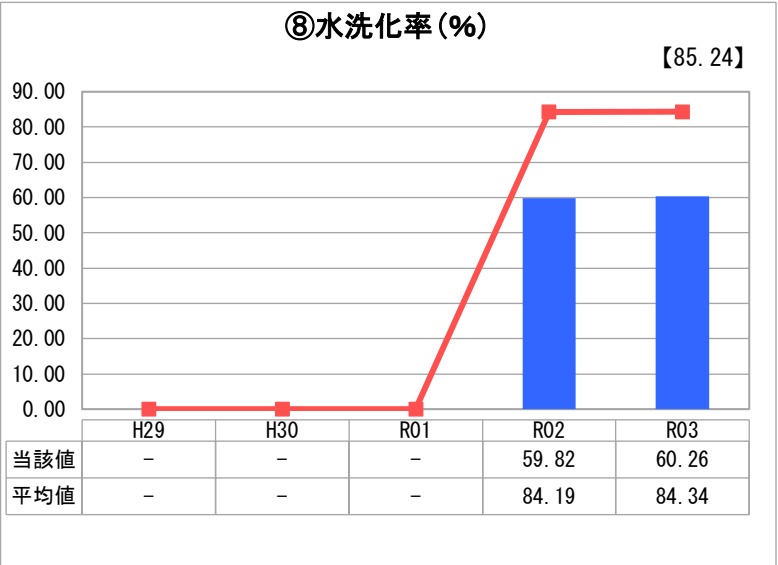
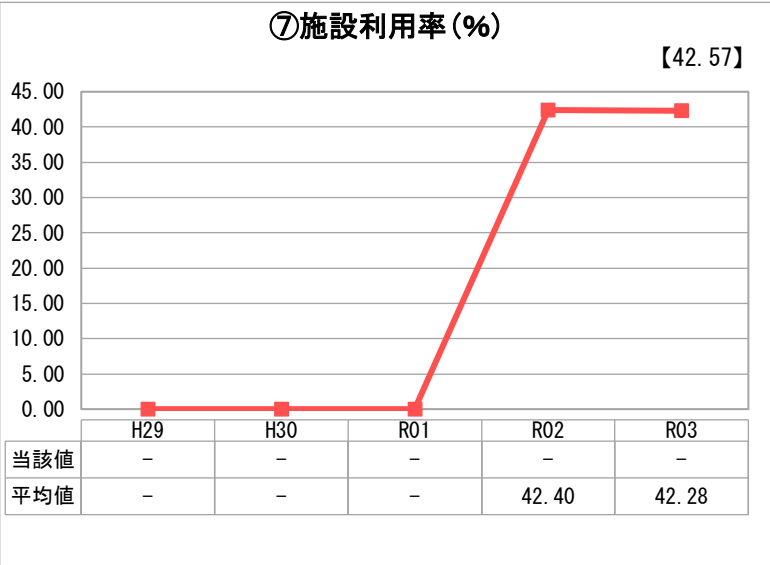
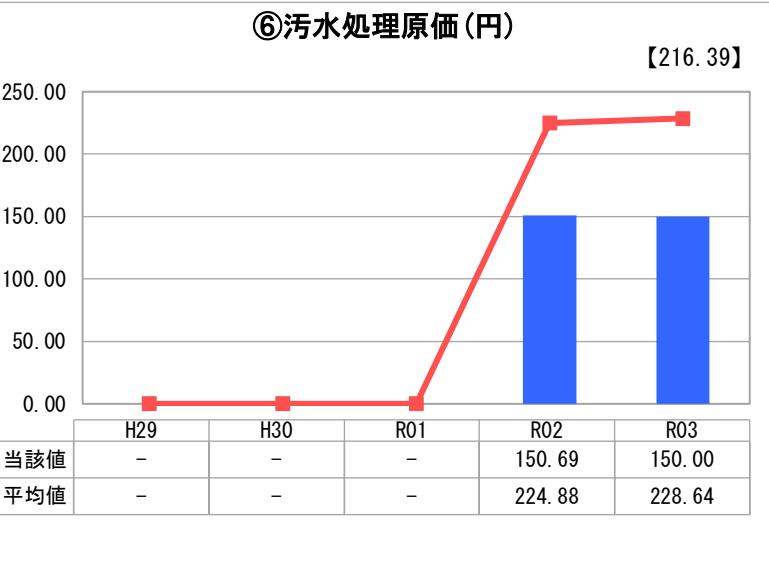
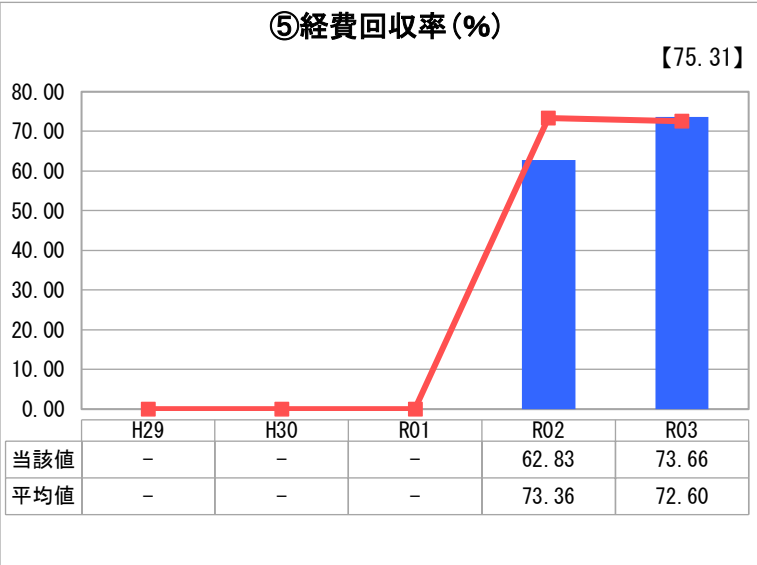
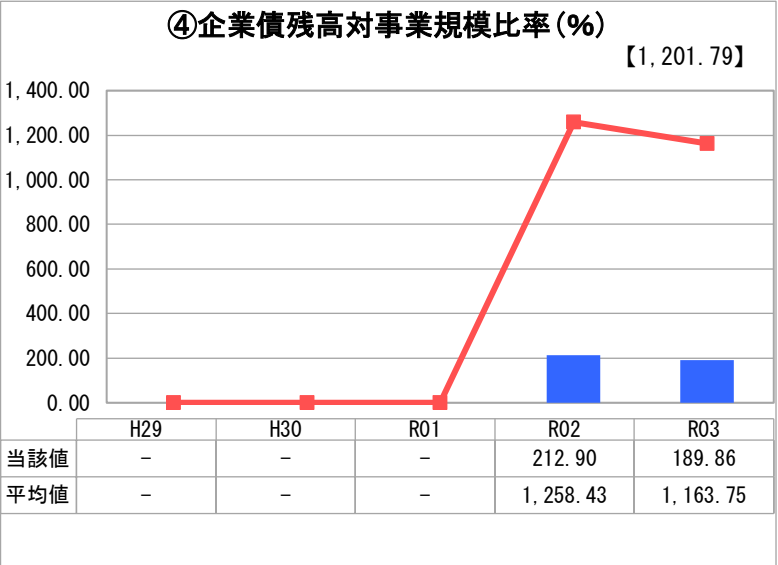
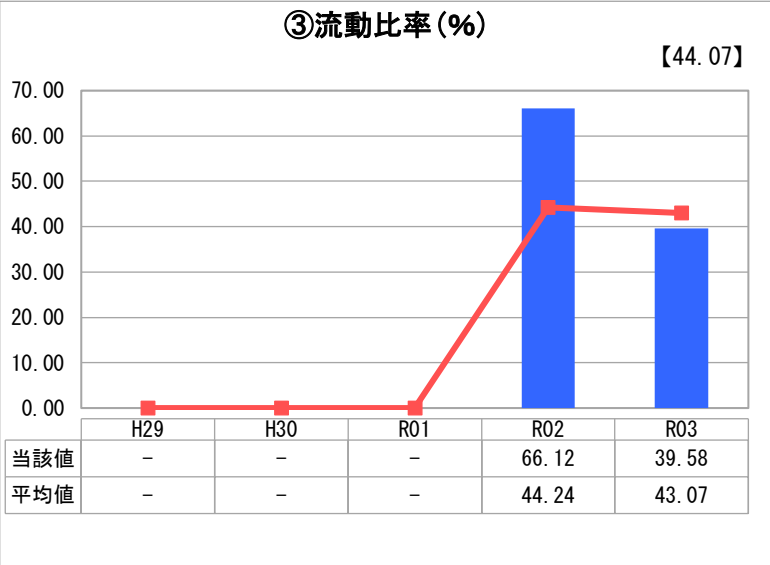
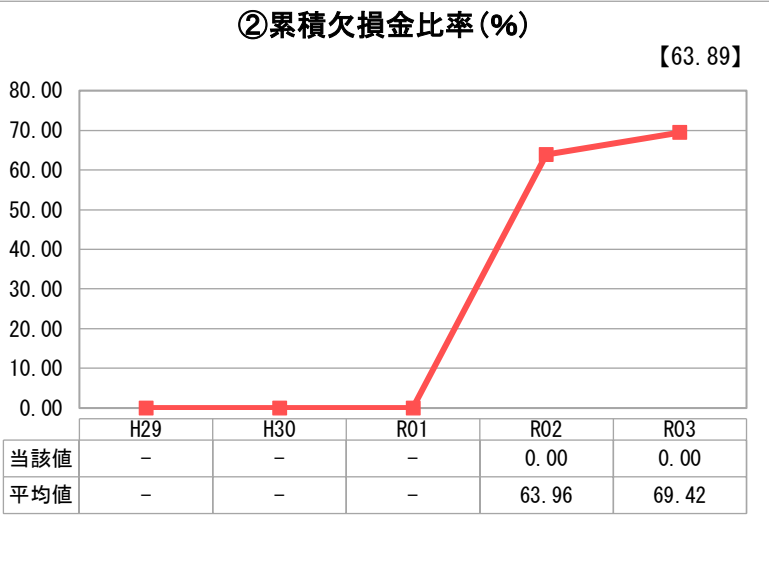
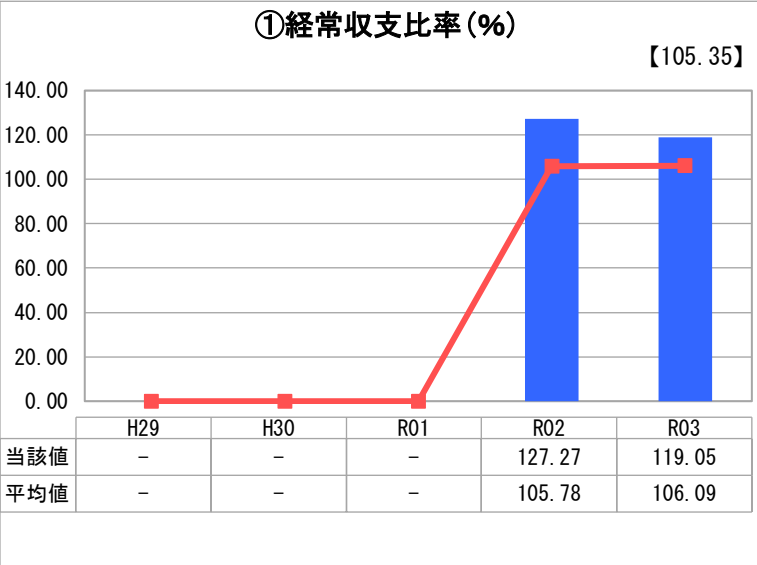
奈良県 御所市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	59.02	6.07	88.00	2,420

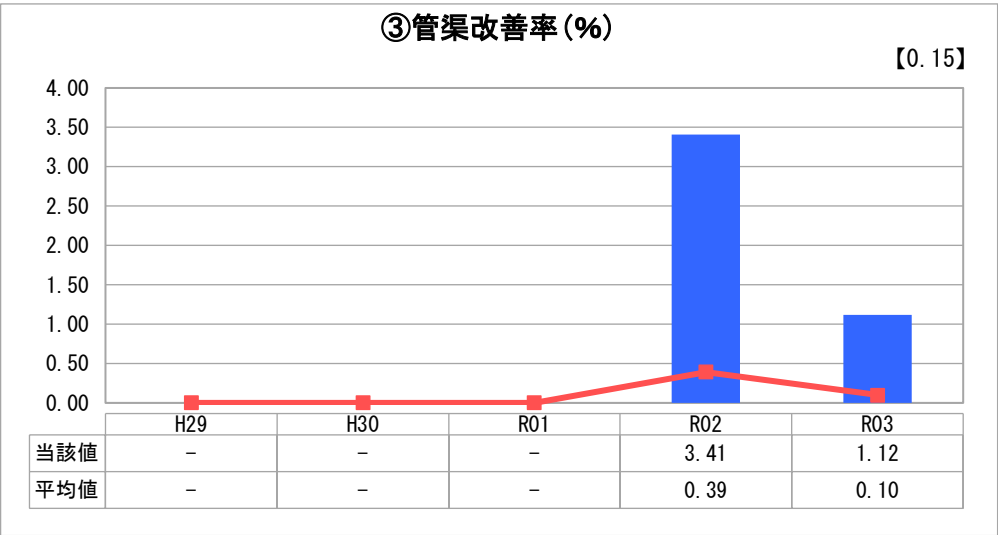
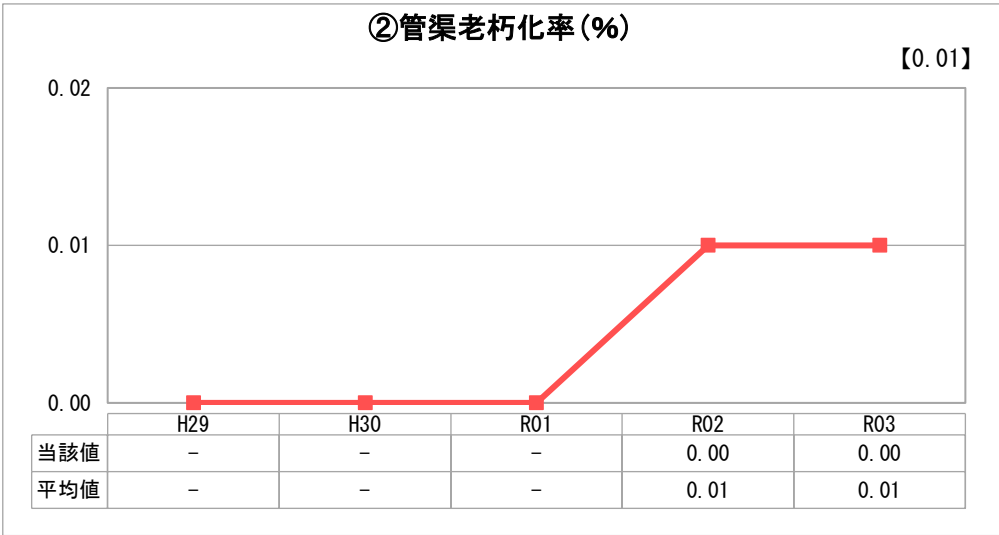
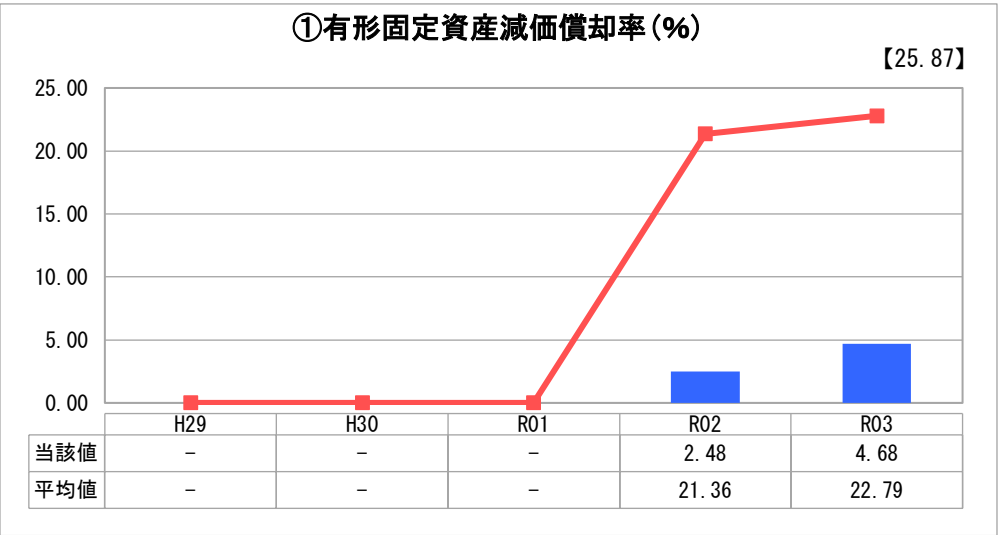
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
24,515	60.58	404.67
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,477	0.67	2,204.48

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支においては黒字決算となっているが、主な要因としては、基準外繰入金を相当額一般会計より繰入しているためであり、公営企業として安定した経営体制は構築できていない。
決算統計上、各経費等について理論上按分しているものがあり、経常収支及び経費回収率において他団体平均値以上となっているが、実情は人口減少、高齢化等の要因により、使用料収入が伸び悩んでいることから、**非常に厳しい状況である**と見込まれる。
また、先述のとおり、一般会計からの多額の繰入金により業務体制を維持しているため、内部留保できる現金等の流動資産が少なく、また、流動負債における元金償還分のウェイトが大きいことから、流動比率についても他団体を下回っている。

2. 老朽化の状況について

本市の下水道事業は、平成9年度に建設開始し、平成14年度から供用開始している。老朽化に起因する管渠の閉塞・陥没等の事例はまだないが、今後更新経費の確保が課題となる。

全体総括

今後、さらなる人口減少・高齢化等により料金収入の減が見込まれることから、費用対効果を念頭においた財政運営が不可欠である。
特に、今後老朽化する管渠更新経費の確保が喫緊の課題であることから、ストックマネジメント計画を策定し、有利な財源確保及び実効性及び必要性を見極めた管渠整備に努めてまいりたい。
また、R5に経営戦略の見直しを行い、料金改定の必要性について吟味することとし、併せて、会計年度任用職員の雇用等により加入促進に努め、水洗化率の向上に努めたい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。